

講習名	幼稚園教育における保育内容の充実 - 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえて -	
時間数	18時間	
受講対象者	幼稚園教諭	
担当講師	三宅 一郎、福田 規秀、半田 結、日坂 歩都恵、井上 朋子、 杉田 律子、崎元 りずみ、柳楽 節子	
講習の概要	講習Ⅰ	<p style="text-align: center;">乳幼児期の「運動遊び」を考える</p> <p>運動動作の獲得は児童期の中期にほぼ完了します。その意味からも、運動遊びは幼児期において大切な活動となります。発育発達段階に応じた運動遊びの実践方法を共に考えてみましょう。</p> <p>『楽しい運動遊び』を実際に体験し、子どもの頃の気持ちを思い出して見てください。運動嫌いや苦手な子どもを作らない為にはどのような実践方法が良いのか、改めて考えてみましょう。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：三宅 一郎〕</p>
		<p style="text-align: center;">障害理解と合理的配慮①②</p> <p>特別支援教育においては、保育者が障害のある子どもを理解し適切な支援を行うと同様に、クラスの子どもに対して障害について適切な説明をし、支援していくことが大切です。</p> <p>そこで、本講習では子どもの発達過程について改めて理解を深めるとともに、障害の基礎的事項を学んで障害理解を目指すとともに、子どもたちの障害理解を促進するための教育方法を学び、事例を通して支援の在り方について考えることを目的とします。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：杉田 律子〕</p>
	講習Ⅱ	<p style="text-align: center;">子どもの健康と幼児教育</p> <p>子どもの生活の場である幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園という環境は、子どもが育つうえで一定の質が確保できるよう、各園でさまざまな工夫がされています。園で行われている基本的な生活習慣は、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも示されているように幼児教育の大きなねらいの一つです。子どもの習慣は新しく刻まれていくものだからこそ、将来にわたって健康的な生活が送れるように支援していきたい。そのためには、子どもの生活習慣の自立の重要性を共に考えていきたいと思います。</p> <p>幼稚園教育要領の改訂に基づいて、保育の中で主体的・対話的な学びを深めることが求められています。幼稚園教育要領に位置付けられている内容・方法について、保育の実践ではどのようなことが考えられるのか、今後の幼稚園教育の課題は何か、などについて、一緒に探っていきましょう。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：日坂 歩都恵〕</p>
		<p style="text-align: center;">子どもと造形表現①</p> <p>幼児期における造形遊びにおいては、保育者が子ども・保育に関する専門知識とともに、造形表現活動への関心を持ちながら、いかに楽しく開放的な表現の“場”を創り出すことができるか、その力が試されているといえます。</p> <p>この講習では、シルクスクリーンプリント、多面体の組み立て、彩色とコラージュ等の技法を使いながら、最終的に小さい絵本を制作します。版の体験と共に、素材を生かす技術、色彩感覚、イメージを絵にする力、ストーリーの組み立て等の能力を結集し、楽しみながら作品を制作します。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：柳楽 節子〕</p>

講習の概要		子どもと造形表現②
		<p>子どもの造形表現はおしゃべりのようなものです。日々の生活の中で、子どもの造形表現を支えるには、どのようなことに心がけて実践したらいいのでしょうか。</p> <p>本講では、改めて、子どもの絵の意味とその魅力について体験的に学び、そこから表現を支えるものを考えていきます。そして、保育者自身が新しい表現方法を実際に体験しながら、子どもの造形を支える要素について理解を深めていきたいと考えています。</p>
		〔担当：半田 結〕
		幼児教育の質の向上について
	<p>少子高齢化が進む中、日本の存在感の低下が懸念されたり、グローバル化や情報化の進行により、職業等のあり方も現在とは比較にならないような変貌を遂げるかもしれないと言われています。幼児教育・保育の世界では、こうしたことに対処できるよう、子どもたちの日常生活の中で、生きる力の基礎を培おうとしています。幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂(改定)では、こうした視点をもう少し具体的に、子どもたちをしっかりと支えていこうとしています。それを概観することで、先生方の現状にもその視点を取り入れてもらえるようにし、現在の教育・保育実践に資するものになれば幸いです。</p>	
		〔担当：福田 規秀〕
	子どもと音楽表現①	
	<p>音やリズムに関する感覚的なあそび、コミュニケーションあそびを取り扱います。五感や想像力を十分に働かせながら、まずは心と身体をひらきましよう。そして、さまざまな表現活動を体験する中で、他者に自分の思いが伝わる喜び、思いを伝え合う楽しさを実感していただけたらと思います。</p>	
		〔担当：井上 朋子〕
	子どもと音楽表現②	
	<p>童謡や日本の唱歌を歌詞や旋律を生かした表現で歌います。また、小物楽器やトーンチャイム、ミュージックベルを使い、楽器の響きや特性を知り、楽しく演奏します。保育現場で、音楽を通して子どもたちの豊かな感性を育むことに繋がっていったらと思います。</p>	
		〔担当：崎元 りずみ〕

<p>評価方法</p>	<p>3日間3講習（10項目）の筆記・実技試験の成績により評価します。 各講習の合計点が100点満点となる成績評価を行い、60点以上を合格とし、履修認定を行います。</p>		
<p>成績評価の観点</p>	<p>講習Ⅰ</p>	<p>乳幼児期に「運動遊び」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の運動発達特徴を理解しているか。 ・運動遊びの実戦方法と援助方法が理解できたか。 ・運動遊びにおける評価の仕方と考え方が理解できたか。 	
		<p>障害理解と合理的配慮①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものおおまかな発達過程について理解できているか。 ・大脳生理、身体障害、知的障害、発達障害などについて基礎的事項を理解できているか。 ・発達の観点から子どもの障害をとらえることができているか。 ・障害理解および障害理解教育についての適切な教育観を形成することができているか。 ・合理的配慮について基礎的事項を理解できているか。 	
	<p>講習Ⅱ</p>	<p>子どもの健康と幼児教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活における課題を捉えることができたか。 ・子どもの発達に応じた支援について理解できているか。 ・子どもに必要な遊びについて理解することができたか。 	
		<p>子どもと造形表現①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作することに意欲的に取り組んでいるか。 ・柔軟に発想することができたか。 ・素材と技法に関心を持ち、工夫することができたか。 	
		<p>子どもと造形表現②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な造形活動に対して、意欲的に取り組んでいるかどうか。 ・イメージを膨らませ、自分なりに工夫することができているかどうか。 ・思いや意図をもった表現ができているかどうか。 	
	<p>講習Ⅲ</p>	<p>幼児教育の質の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な保育活動の指導について考察できたか。 ・幼児教育の見方・考え方について、理解できているか。 ・主体的・対話的な保育の実践を理解できているか。 	
		<p>子どもと音楽表現①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の面白さや旋律の特徴を捉え、表現の工夫をしているか。 ・色々な楽器の音色に親しみ、ハーモニーの美しさやリズムの面白さに気づき演奏しているか。 	
		<p>子どもと音楽表現②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を理解できているか。 ・互いの音を聴き合い、アンサンブルを楽しんでいるか。 	
	<p>使用する教材等</p>	<p>全講習</p>	<p>必要に応じて資料を配付する。</p>